

札幌聾学校 寄宿舎

寄宿舎の研究、研修について

令和 8 年 8 月 3 1 日

記 事

寄宿舎は、幼児、児童、生徒が起床から就寝までの日課を通し、家庭的な雰囲気大切にしながら、基本的生活習慣を身につけ、異年齢の子どもたちとの集団生活を経験することで、協調性と自立心を養い、自立に向けた生きる力を育てられる場所です。本校寄宿舎では、基本的生活習慣の確立や生活経験の拡充、自主性や社会性の育成をねらいとした生活指導に向け、聾学校寄宿舎における寄宿舎指導員の資質、専門性向上を図るため様々な研究やニーズに基づいた研修を日々行っています。今回は実際に取り組んでいる内容について一部御紹介したいと思います。

【研究について】

毎年、北海道では全道の聾学校職員が集まり、各聾学校のテーマに基づいた聴覚障がい教育に関する研究大会があります。本校寄宿舎では今年度は、一人一人の実態を把握した上で、将来に必要な資質、能力を育むための支援や、指導の在り方、方法の工夫について考え、切れ目のない系統性のある確かな支援・指導が実践されることを目的とした研究に取り組んでいます。

【研修について】

本校寄宿舎では毎日、手話単語のくじを引いて、単語の手話表現、文章を2つ以上組み合わせた手話表現などの研修を行っています（読み取り研修も含みます）。また週1回手話通訳研修のほか、月1回「ミニ研修」として、指文字、接続詞、同音異義語の手話表現、補聴器や人工内耳などの研修を行いました。10月には寄宿舎講師招聘研修会として、聴覚障がい教育の専門家を招き、子どもの将来を見据えた生活指導の充実に向けて、寄宿舎教育に必要な専門性の向上を図る研修会を予定しています。

【個別の指導計画について】

「保護者の願い」を基に、舎生の実態を的確に把握し、それぞれの課題に向けて設定した目標について、保護者、指導員間で共通理解を図り一貫した指導に努めています。



poplardaiko@hokkaido-c.ed.jp



011-758-0923（寄宿舎直通電話）